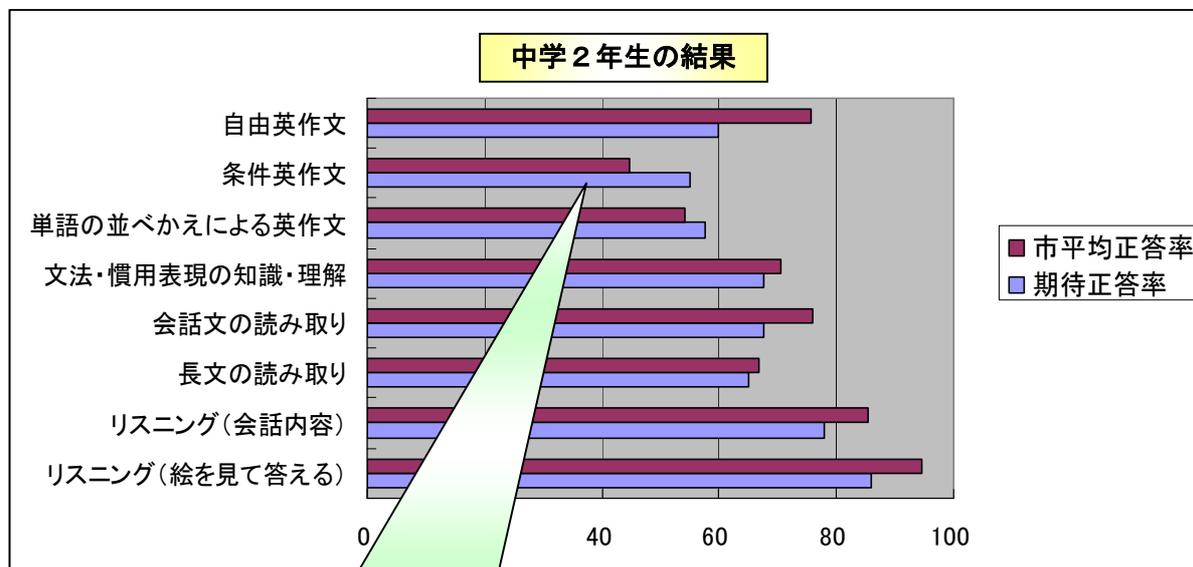


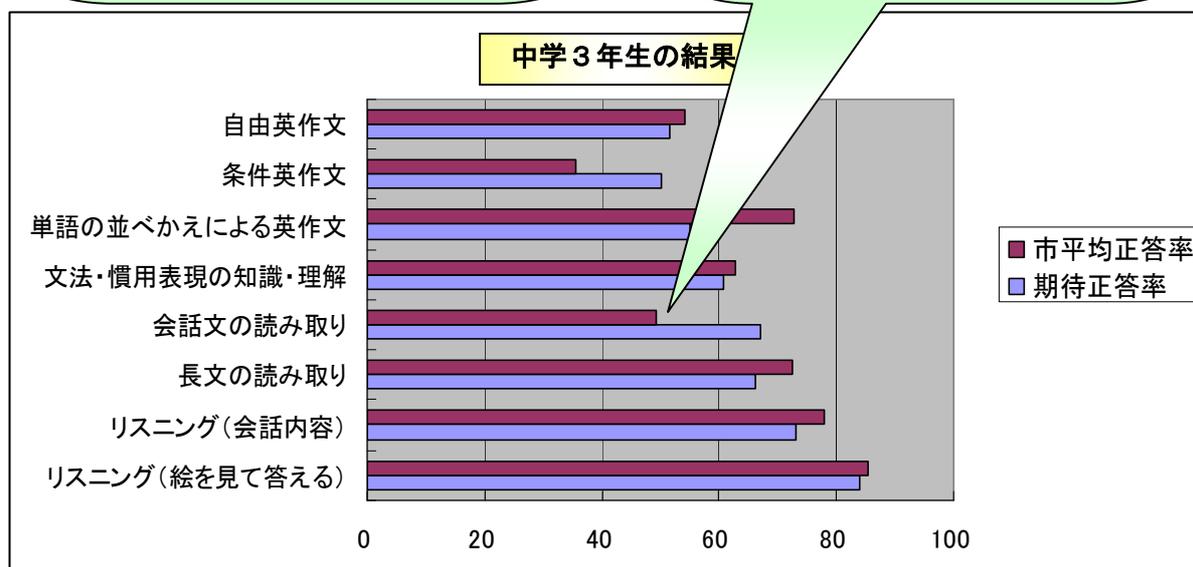
# 平成 21 年度版 指導改善の手引＜中学校英語編＞

## ◆◆◆ 仙台市標準学力検査の結果と分析から ◆◆◆



条件英作文の問題（応用問題）では、期待正答率 55.0% に対して、正答率 44.8% でした（3 年生もほぼ同様の結果）。特に、「住んでいる場所」を尋ねる表現についての問題は、期待正答率 45.0% に対して、正答率 14.7% でした。

会話文の読み取りの問題では、期待正答率 67.0% に対して、正答率 49.2% でした。特に、対話文の内容を把握し、質問文に答える問題（応用問題）は、期待正答率 50.0% に対して、正答率 17.6% でした。



## 基礎的知識「聞くこと」「読むこと」

「主語＋述語」「前置詞句」など「意味のまとまり」から「聞く」「読む」の練習を繰り返し、自己表現につなげる指導を心掛けましょう

ポイント① 1文ずつ「意味のまとまり」ごとに理解させることから始めましょう

○「意味のまとまり」ごとにスラッシュを入れ、英文の語順で内容をとらえさせましょう。

指導例) Unit 7 “My Favorite Movie” Starting Out  
(*New Horizon English Course 2*)

- ・ Which is stronger, / Godzilla or King Kong?
- ・ I think / Godzilla is stronger / than King Kong.

\*特に、「主語＋述語」は意識させながら練習させましょう。

○スラッシュを入れた「意味のまとまり」ごとに、教師やCDの英語を聞いた後（聞きながら理解）、段階をおって音読練習をさせましょう（音読しながら理解）。

段階を追った音読練習 1) 教科書を見ながらのリーディング

段階を追った音読練習 2) 教科書を見ないでのリピーティング

段階を追った音読練習 3) シャドウイング（生徒の習熟度に応じて）

○スラッシュの数を減らし、「意味のまとまり」から1文になるようにしましょう。

指導例) Unit 7 “My Favorite Movie” Starting Out (*New Horizon English Course 2*)

・ I think / Godzilla is stronger / than King Kong... (3回練習)

↓  
I think / Godzilla is stronger than King Kong... (2回練習)

↓  
I think Godzilla is stronger than King Kong... (1回練習)

\*スラッシュの数が少なくなるに伴い、音の変化（「連結」や「消失」等）に注意させましょう。

\*また、モデルと同じスピードで音読できるように意識させましょう。

○最終段階として、暗唱させ発表につなげましょう。

内容を理解させながら、「聞く」「読む」活動を繰り返すことによる基礎・基本の定着

ポイント② まとまった英文では、「聞き取り」「読み取り」のポイントを明確にしましょう

○達成感をもたせるために、理解のポイントを明確に提示しましょう。

指導例) Unit 7 “My Favorite Movie” Reading for Communication  
(*New Horizon English Course 2*)

・理解のポイント

- 1 E.T.って何？
- 2 E.T.がしたいことは？
- 3 エリオットってどんな人？
- 4 E.T.とエリオットはどうなる？

理解が不十分な場合には、「意味のまとまり」に注目させる指導

ポイント③ 内容理解の状況を把握しましょう → 「応用力」

○OTFクイズやQandA等を活用しましょう。

指導例) Unit 7 “My Favorite Movie” Reading for Communication  
(*New Horizon English Course 2*)

・Q and A

- 1 Where does E.T. come from?
- 2 Why is E.T. all alone?
- 3 Where did they go by bike one day?
- 4 What did E.T. say when they said goodbye?

\*wh疑問文を使用し、センテンスでの解答を心掛けさせましょう。

内容理解で得た情報に、自分の体験や考えを結び付けた表現

## 基礎的知識「話すこと」「書くこと」

文法・慣用表現をスモールステップで繰り返し練習させ、自己表現につなげる工夫を取り入れましょう

### ポイント① 意味を押さえた口頭練習を通し、「話すこと」の基礎作りをさせましょう

- ★絵や写真などの視覚情報による導入の場面提示
- ★文法・慣用表現に焦点を当てた口頭での反復練習
- ★言語形式と意味内容の理解を促すペアワーク

指導例 <現在完了形（経験用法）>

- 1 口頭導入 A: Have you ever played tennis?  
B: Yes, I have. / No, I haven't.
  - 2 リピート
  - 3 パターンプラクティス  
<下の5種類の絵を見せながら>  
play tennis, visit Okinawa, make a cake  
see a koala, read a Harry Potter book
  - ①動詞句を全体でリピートさせる。
  - ②教師が示す語句を用いて全体に言わせる。  
T: played tennis  
Ss: Have you ever played tennis? (他も同様に)
  - ③絵を見せてすぐに全体に言わせる。  
Ss: Have you ever played tennis?  
T: Yes, I have. (他も同様に)
  - ④絵を見せて生徒個人に質問させる。  
S1: Have you ever played tennis?  
T: Yes, I have. (他も同様に)
- 4 ペアで考えて対話練習→発表

### ポイント② 英文の構造を意識させて「書くこと」に結び付けましょう

- ★単語練習の徹底
- ★主語と述語、be動詞と一般動詞の区別など、語順、文構造を意識させた練習

指導例（意味内容の理解を踏まえて）

- 1 単語、フレーズの筆写練習
- 2 口頭練習した英文の書き取り練習
- 3 音読をしながらの書き取り練習
- 4 音読から暗記させての書き取り練習

### ポイント③ 身に付けた知識を活用させて自己表現につなげましょう ⇔「応用力」

- ★身近で、興味・関心に基づいた題材の工夫
- ★接続詞や代名詞などを意識させた練習
- ★文と文のつながりを意識させた練習

指導例

- ◎口頭練習した表現を使って、自分自身のことを英文で書かせる練習
- 1 条件を提示して、1文書かせる。
  - 2 生徒の1文を取り上げて、それに続く文を全体に考えさせる。
  - 3 2で出てきたものを基に書く手順を確認してさらに文をプラスさせ、口頭で発表させる。
  - 4 生徒の英文は改善の要点を示して返却する。
  - 5 優れた英文を紹介する。(モデルとして提示)

応用力「発信力」の育成 ～理解から表現へ～

「聞くこと」「読むこと」から得た情報を自分の体験や考えなどと結び付けて理解を深め、「話すこと」「書くこと」の表現活動の充実を図りましょう

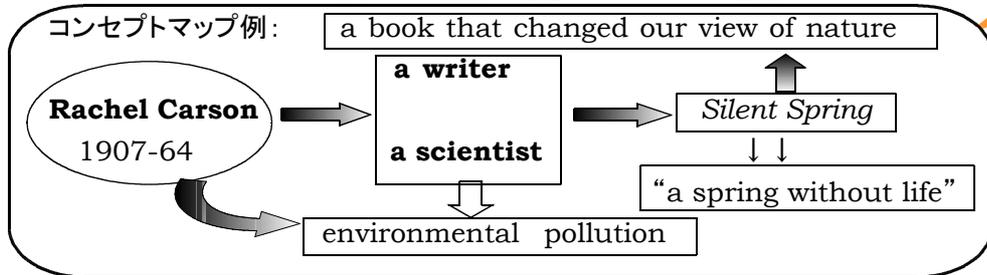
ポイント① 内容理解の橋渡しとなる口頭導入を工夫し読解の視点を与えましょう

☆ Oral Introductionによるtopicとキーワードの提示 → 読み取る観点の提示

**Oral Introduction 例 : Unit 6 20th Century Greats**  
**Dialog 及び Reading for Communication (New Horizon English Course 3)**  
 読解の視点 : **Rachel Carson, Environmental Pollution, Silent Spring**  
 "Do you know what it is? It's *medaka*. Most of them are gone now. Why?  
**Environmental pollution** (環境汚染) caused the death of nature. She was **Rachel Carson**. She was the scientist who wrote **Silent Spring**. . . ."

ポイント② 音読活動及び読解活動の充実を図りましょう

☆ レイチェル・カーソン及び「沈黙の春」についての理解



**コンセプトマップの活用**

キーセンテンス及び語彙・語句の理解と習熟への橋渡し

ポイント③ 「話すこと」「書くこと」と関連させた活動へと発展させましょう

☆ 「理解したこと」について、あらすじをまとめたり、感想や考えを表現する読後活動の充実

ペアやグループによる伝え合い活動の導入と指導の充実

発表活動後の振り返りの重視

**コンセプトマップを活用したSummary WritingやRetelling活動の導入**

**文章構成力を育成しましょう。**

- ・ 発想の支援→アイディアの生成と整理
- ・ 意味内容の一貫性の向上
- ・ 英文の組立て方の工夫と改善
- ・ つなぎ言葉や代名詞への習熟

**相互評価・自己評価活動[Peer Evaluation]の導入**

自分の表現した英文がどのような視点で読まれるか体験させる。  
**評価観点の提示→内容と文法表現に対する評価を分けて行う。**

《評価観点例》 ① 科学者・作家としての功績 ② 代表作「沈黙の春」について ③ 感想

[指導のポイント] モデルとなる作品を提示し、生徒の発想や表現力を拡充する手だてとなる場面を設定しましょう。

(評価観点例③) "I think she really wanted to stop environmental pollution.  
 生徒の感想例) I can't live like her. But I want to read her book, *Silent Spring* some day."

ポイント④ 受信した情報をもとに伝え合う体験を積みませましょう

☆ 「聞き取ったこと」「読み取ったこと」について伝え合うことの意義を実感させる指導の充実

題材背景にある文化への関心を高める教材や生徒作品など様々な資料を活用し「受信する力」を養いましょう。

受信した情報を相手に伝達する場面を計画的・系統的に設定しましょう。

Reporting, Dictogloss, Information - gap task, Speechや Show & Tellなどの導入と活用の工夫

間違いを恐れず互いに学び合おうとする態度の育成

